

週寫眞  
報

輯編局報情  
ンセ十・號八百三第・日九月二

昭和十七年九月二日 第三十八號 週寫眞報 第三十八號 九月二日發行 每星期一號 水曜日發行 第三十八號



島から島へ

たゆまざる蟻のごとく

大東亞の海に戦力をはこび

アジアの靱帯を

彌が上にも強くするもの 木造船

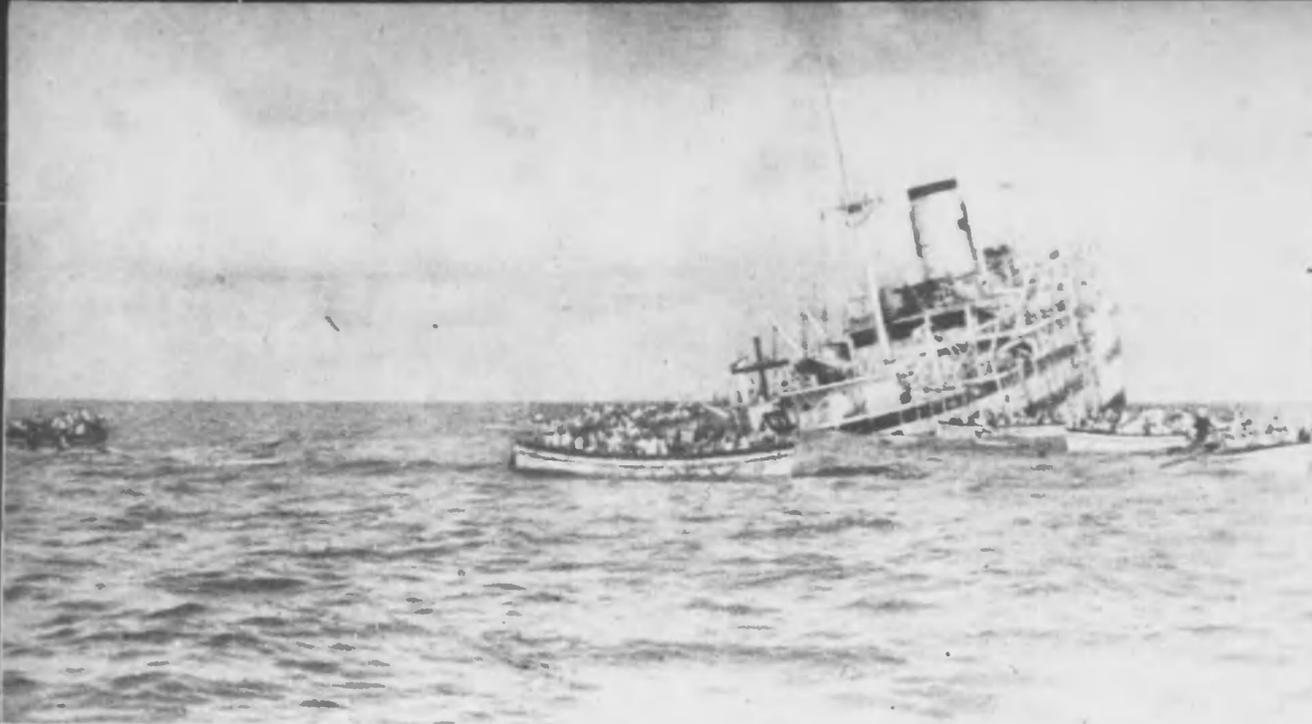
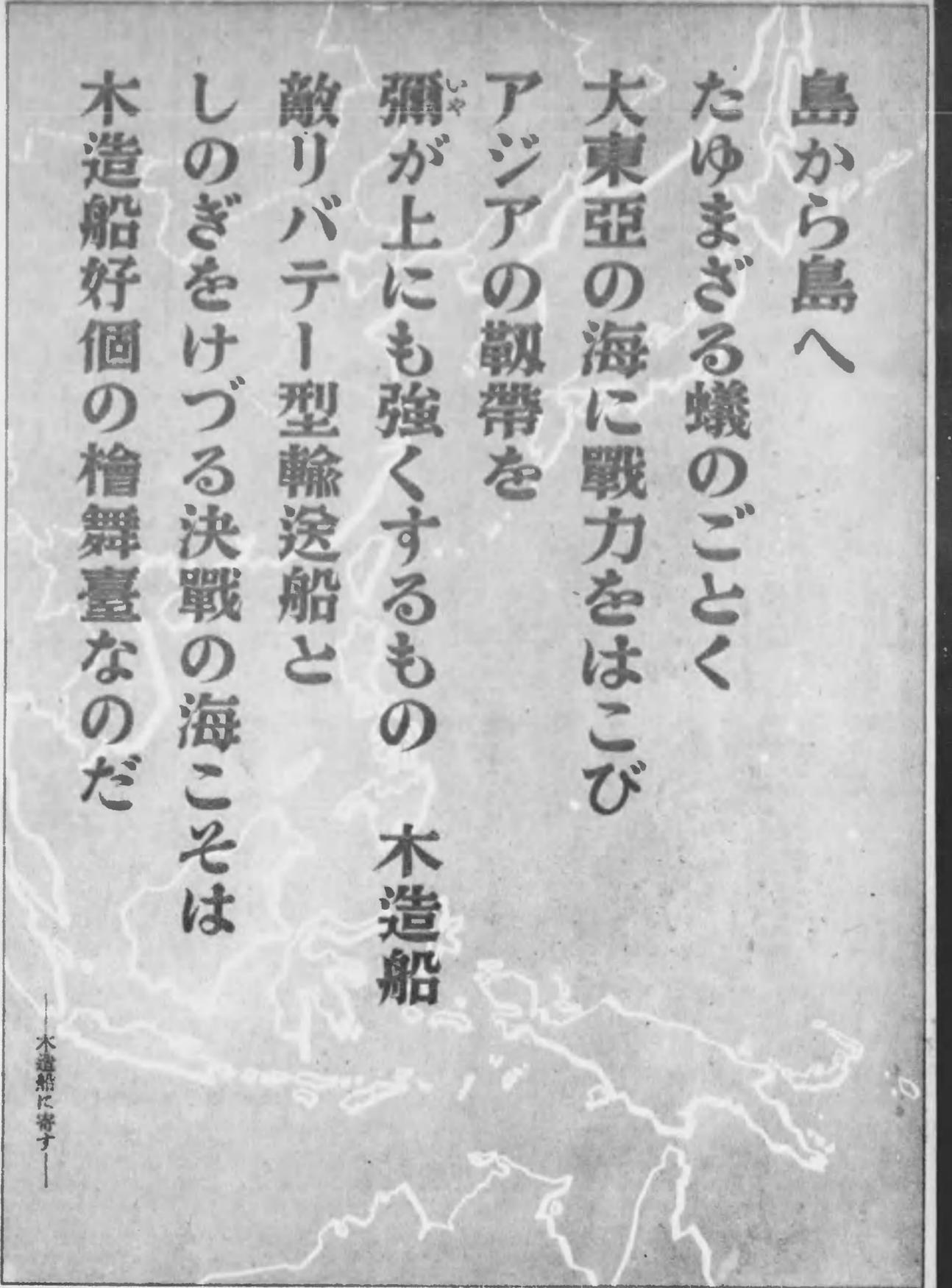
敵りバテ型輸送船と

しのぎをけづる決戦の海こそは

木造船好個の檣舞臺なのだ

木造船に寄す

「時の立札」は他へ轉載その後に御利用下さい



に壊破線給補がわ ずば選を段手は敵

昨年十一月二十七日わが陸軍病院船「ふえのすあいらす丸」が、カビエン西方百五十キロの海上で、敵機B24の爆撃を受け、遂に沈没した事件は、一億の切齒掩腕未だ記憶に新たなところである。戦争勃發以來、敵の不法攻撃をうけたわが病院船は、一月二十六日の吉野丸を以て、十隻、十二回の多きに達してゐる。

目的のためには手段を選ばない敵のこゝる暴虐非道に對しては、わが方もその都度嚴重な警告を發し、重光外務大臣も講會において、これ以上の暴舉に對しては相當の決意ある旨を表明された。

だが、われわれは敵が全世界に誇示した正義人道の一枚看板を破毀してまで、かゝる無法を繰返す原因を更にはめねばならぬ。敵は「日本に時を與へるな」を口辭にし、わが補給線遮断に躍起となつてゐる。しかも敵が恐れる日本の時を、せつせと稼いでゐるのは何だらうか。日本の船である。

船が、大東亞の豊富な資源を戦力化し、さらに前線の戦力を増強して、東亞の防衛を磐石にする。悪鬼の如く船に襲ひかゝる敵の眼には、最早や輸送船、病院船の區別はないのだ。敵の野蠻性は、いま更いふまでもない。たゞわれわれは敵の意圖をはつきり掴み、補給線の強化に必死の努力を捧ふのみである。

無念「ふえのすあいらす丸」の巨艦は徐々に波に沈み、正に船首を海中に没し去らんとする「ふえのすあいらす丸」



# 断絶を断つ補給線

補給線は戦場の命脈である。補給線が断たれると、戦場は死地である。補給線を守ることは、戦場の勝敗を決定する重要な要素である。補給線は戦場の命脈である。補給線が断たれると、戦場は死地である。補給線を守ることは、戦場の勝敗を決定する重要な要素である。



## 補給戦と船舶部隊

海を前にし背にして奇襲なる決戦が連続してゐるのが大東亞戦争の特色である。しかも戦場

はいづれもわが帝國本土から数千里離れた海  
の彼方にある。將來作戦が如何に推移してもこ  
の戦場には變りはない。この海洋作戦に勝ち抜  
く要諦は如何といふに、これは直ちに「わが海  
洋補給線を確保し、反対に敵の海洋補給線を断  
ち切るに在る」といひ換へると「わが船を守り、  
敵の船を出来るだけ多く沈める」とことだと断言  
しても過言ではなからう

前歐洲大戦に英國のロイド・ジョージは「英  
國を救ふものは、一にも船、二にも船、三にも  
船」と絶叫した

東海の小島帝國であり、戦争遂行上の物的戦力  
を維持し、その増養の主體を海外に得なければ  
ならないことにおいて、彼の英國とその船を一つ  
にするわが國もまた「わが船を守り、敵の船を  
沈める」といふべきである。たゞ航空機の  
成果が、戦争の勝敗に絶對とはいはないまでも  
極めて重大な意義を有することが前大戦當時と  
甚だしくその差をこととする。しかしその飛行  
機を造ること自身が問題である。飛行機の生産  
は資源と工場と輸送の上に組立てられ、これを  
動かしてゐるのが人の力である。その輸送は誰  
がやるかといへば船が當然その任務を遂行する  
ことになる。従つて飛行機と船との關係は恰も  
鶏と卵の關係に似てゐる



出帆から入港まで、補給線にもぐりこんだ補給部隊は暑熱とたかひながら補給の動力を守りつづける



敵船とともに補給線よくんで... 補給線は戦場の命脈であると同時に敵の命脈をついて... 補給線は戦場の命脈であると同時に敵の命脈をついて...

さて、そこで現在南の戦場においてはどうい  
ふ情況かといふと、船舶部隊といふものが前線  
部隊に對し舟艇による後方補給を擔任してゐ  
る。敵はこの補給線を遮断せんがために、飛行機  
を繰り出してやつてくる。補給線はこの飛行機  
の眼をかくす。其間には木蔭、島蔭に隠れ、或ひは  
陸上に船を引き揚げて、夜になつて滑り出すなど、  
苦心奮闘して補給の仕事をやつてゐる。敵機は  
最近日本軍の奇襲的な補給が巧みなり、なかなか  
敵に見つけられないことになると、敵機は推  
定射撃をやつた。この邊は日本の舟艇が隠  
れさらな場所だとすると、そこを狙つて機銃掃

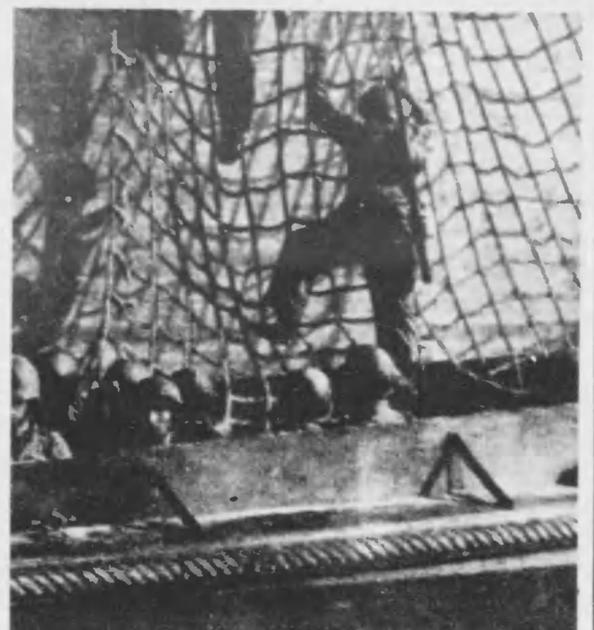
射をやるといふ徹底したやり方をしてゐる。一  
方、海の上では、この舟艇に對して直接これをや  
つづける魚雷艇といふものが、船舶部隊の舟艇  
機動の要路に待ち構へて快速と火力を以て我に  
挑戦して来る。すなはちこの快速魚雷艇は海の

戦場であり、舟艇は海上に於けるトラップとて  
もいふらうか。こゝに戦車とトラップの攻防戦が  
演ぜられる。これは補給の攻防によつて生ずる  
海上機甲戦ともいふべきものであらう。將來  
ます／＼この傾向は激しくなるものと思はれ  
る。そこで日本の船舶部隊は補給舟艇の一部に  
大砲を準備して武装大發動艇(砲の製菓車自衛車  
ともいふらうか)として敵の魚雷艇に對し、四六  
時中、戦ひをして第一機銃兵の補給をつづけて  
ゐる。軍に補給戦だけではない、敵の來攻にあ  
つたつては逆に海上に反撃して戦果を収めてゐる  
戦例も多々ある

このやうに船舶部隊の戦ひはまだ組織立つた  
戦ひと思はれないが、この船舶部隊の輸送の後  
方には、永年海に鍛へたわが機銃、漁船が、  
その任務を受け續いてゐることを忘れてはなら  
ない。「われは海の子」である海洋民族の血潮は  
今や再び沸騰し、太平洋の真只中で大和男子の面  
目を發揚するの目を迎へたわけだ

敵の反攻作戦は制空機の確保と上陸作戦との  
二つの型で行はれてゐる。そこでいま敵の上陸  
作戦の一般要領を述べてみよう  
敵の上陸作戦の特性ともみられるのは陸上基地  
よりする航空勢力支援の下に行ふことである。  
企圖する上陸正面に對し、二ヶ月前から航空  
機掃射をやる。もう制空権は大丈夫だといふこ  
とにかなければ上陸作戦はやらぬ。いよいよ  
上陸準備の前になると機銃掃射をやる。これ  
には斥候艇を使い、低音エンジンを使い得ない  
時には海岸への音の到達する距離になる前に、  
機銃で隠蔽前進して斥候艇を擡げて偵察する  
ときには機銃の海岸へ游泳艇距離内に輸送し  
て救命胴衣を着けて海岸まで游泳上陸させるや  
うなこともする。或ひは落下傘も使ふ。これら  
の斥候との連絡は無線電報通信でやつてゐる  
かやうに上陸作戦準備をする。上陸部隊はわが  
配備の間隙を這入る。上陸部隊は三日  
三日前から優勢なる航空兵力を以て上陸部隊に對  
して猛掃を加へる。次いで上陸部隊に對してまた

# 万全を期す 敵の上陸用舟艇



輸送船からYボートへ移乗  
クロコイル車輦揚陸艇、艦首を前方に傾し機車は海岸めざして進出する。左右にあるユリカ上陸艇は機車に随伴する阻撃兵をこぶ



孤島と艦隊の艦砲射撃を行ふ。それこそ小さな島など委がなくなるかと思はれる程の徹量を濫費する。南方特有のジャングルも忽ち開闢地となつてしまふ。

もう上陸點附近には敵は一兵もゐないだらうといふ目安がついてから上陸を開始する。上陸用資材としては上陸作戦用に造つた特殊船、上陸作戦用の舟艇があり、これには五千トン級の大型輸送船、約五百トン級の船首閉閉式の中型輸送船、約二百トン級の海上トラックに似た小型輸送船、大型大發(約二百人搭載可能の高速機吃水)、小型大發(約五十人搭載可能、輸送量水艦があり、その他水陸兩棲戦車を使つてゐる。これに魚雷艇(魚雷射撃四門、二十ミリ一聯裝機銃一を裝備)、高速艇(二十ミリ以上三三ミリ機銃を裝備し、速力四十ノット)を警戒護衛に使ふ。かくて陸地上陸點を占めると、直ちに堅固な陣地を構築し、火砲、戦車を眞先きに揚げて反撃に備へ、三、四日位で敵國渡位が不時着のできるやうな消走路を作り上げ、一週間はすれば飛行機をだいたい裝備するといつたやうに極めて迅速に土木建築をやる。

これが敵の上陸作戦の一般要領である。

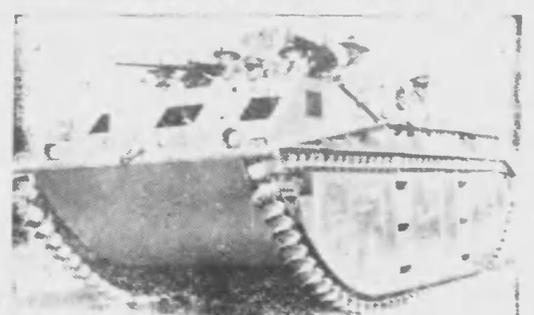
船はわが國戦争遂行上からみても、また太平洋現戦局からみても必須の兵器であることが痛感される。

戰時海運の特性として考へられるものは船舶が敵の潜水艦飛行機により撃沈されて喪失する數量が少いことであり、戰爭規模の増大によつて輸送量がとみに増大することであり、それに陸海軍の作戦用として相當船隻が徴用されることであり、さらに重要なことは船員の確保といふことである。

大東亞戰爭の運命は飛行機と船によつて決せられる。その重大な役割を果す船に對し、われわれはもつと深い理解をもたなければならぬ。さうして優秀な人がより多く船の職に赴くやうにしなければならぬのである。

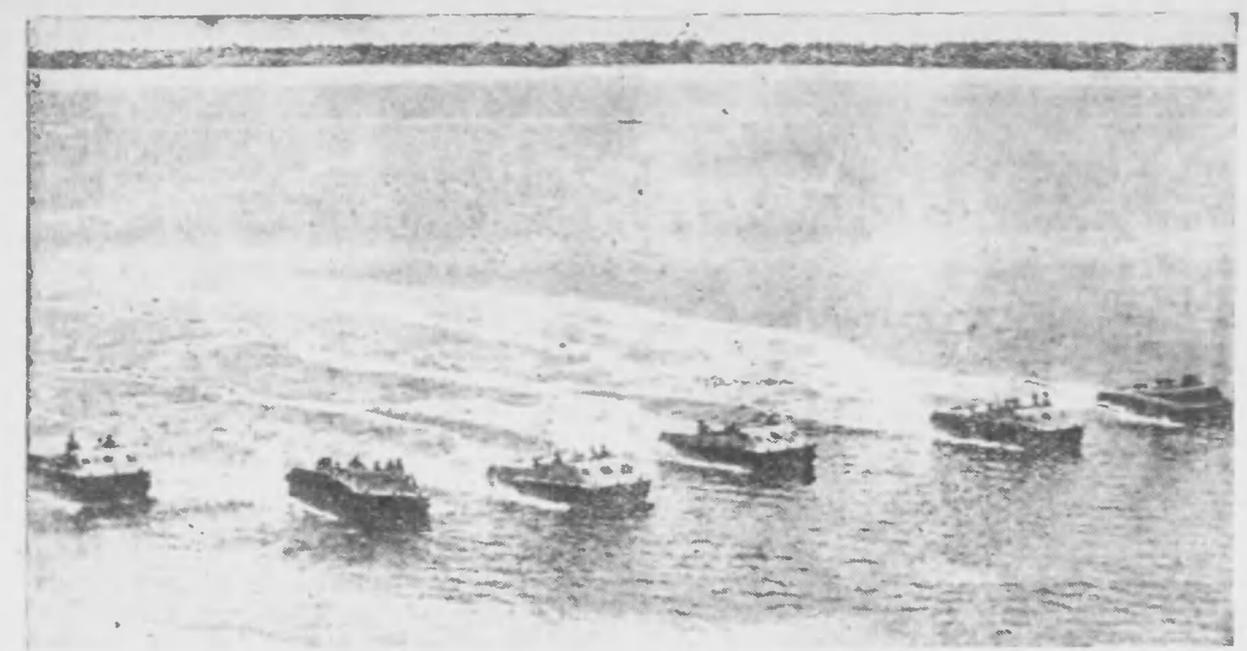
## 大東亞戰爭日誌

十二月一日



二十九日 ●十一月二日より洞窟西方地域に作戦中なり。帝國陸軍軍艦は、重砲兵隊の増援と第百九戰隊の主力を撃滅すると共に、英方面の要衝管理區域の諸軍部隊を完全に覆滅せり。

作戦部隊は所期の目的を完全に達成せり。



十二月二十五日 敵艦隊に復讐せり。

●本件戦間の総合戦果大次の如し

(一) 敵に與へたる損害

我が方にて收容せる死體 一、七四七

俘虜 一四、三二五

常陸附近における飛行機撃墜 六十機

主なる戦果品

火砲 一五八門

小銃 六、三五六挺

各種彈藥 一、三六万發

(二) 我が方の損害

戦艦 一、六六六名

三十一日 ●(一) 帝國海軍艦艇並びに陸軍航空部隊は、日本近海その他作戦海域において十月以降本日まで敵潜水艦十四隻を撃沈せり。

(二) 既報帝國海軍航空部隊の十二月二十五日ブーゲンビル島北方海域における敵機部隊攻撃に際し得たる戦果に敵艦艇一隻撃沈し、戦果を追加す。

●一、帝國海軍航空部隊は昭和十八年十二月三十一日午前、マーカス岬沖敵艦隊を襲撃し、左の戦果を得たり。

撃沈 中型輸送船 一隻

小型輸送船 一隻以上

●我が方の損害 未詳九機

●帝國陸軍航空部隊の昭和十八年十二月一ヶ月間における各方面敵航空部隊に對する進取及び退却作戦の総合戦果大次の如し。

(一) 支那方面

撃墜 百四十機(うち不明機十五機)

撃破 炎上 約百機

我が方の損害 自爆未詳機三十機

ビルマ方面

撃墜 百四機(うち不明機二十二機)

撃破 炎上 十九機

我が方の損害 自爆未詳機二十機

大破 四機

ニューギニア方面

撃墜 九十七機(うち不明機二十二機)

撃破 十數機

我が方の損害 自爆未詳機十八機

大破 炎上 二十機

合計 撃墜 約四百七十機

撃破 炎上 約八十機

我が方の損害 九十二機

# 挺身輸送船 船兵

陸軍特別幹部候補生  
海空立地機動演習

宇品港外



前線な戦局に應へ、陸軍には新たな特別幹部候補生の制度が設けられ、優秀の者に集める青少年にとつて大東亜戦争参加の最も近道が開かれた。  
候補生には航空、船舶、通信、兵技および航技の五種の兵種があるが、今年には決然下最も緊要な輸送兵と船兵の二種だけが募集された。

航空兵の重要性については今さら説くまでもなからう。では船兵とは何か、まだ一般に理解されてゐない點もあると思ふので、その概略を述べ將來志願の參考にしよう。



現在ニューギニア方面作戦の一大特首は、海洋陣地戦の形だといはれる。陸上の陣地戦において最も活躍するのが機甲部隊である如く、海洋陣地戦においても、強力な機甲部隊を有するかが、その勝敗に大きな影響を與へる。

この海洋陣地戦における機甲部隊が即ち船部隊であり、その任務に従事するのが「船兵」だと思へばよい。  
船兵の操縦する舟艇は、その任務に應じて、十トン位の小舟艇より數千、數万トンの大型船まで各種各様であり、武装も任務により戦車の如く装甲されて、機關銃、機關砲、連射砲或ひは野砲を有する装甲艇、魚雷艇あり、多數の高射砲、機關砲、迫撃砲、野砲等を有する大型船もある。また速力も船の用途により〇十カイリから〇十カイリを超えるものもある。  
船兵は、海洋陣地戦に自ら果敢な戦闘を展開するほか、補給に、また敵前上陸作戦



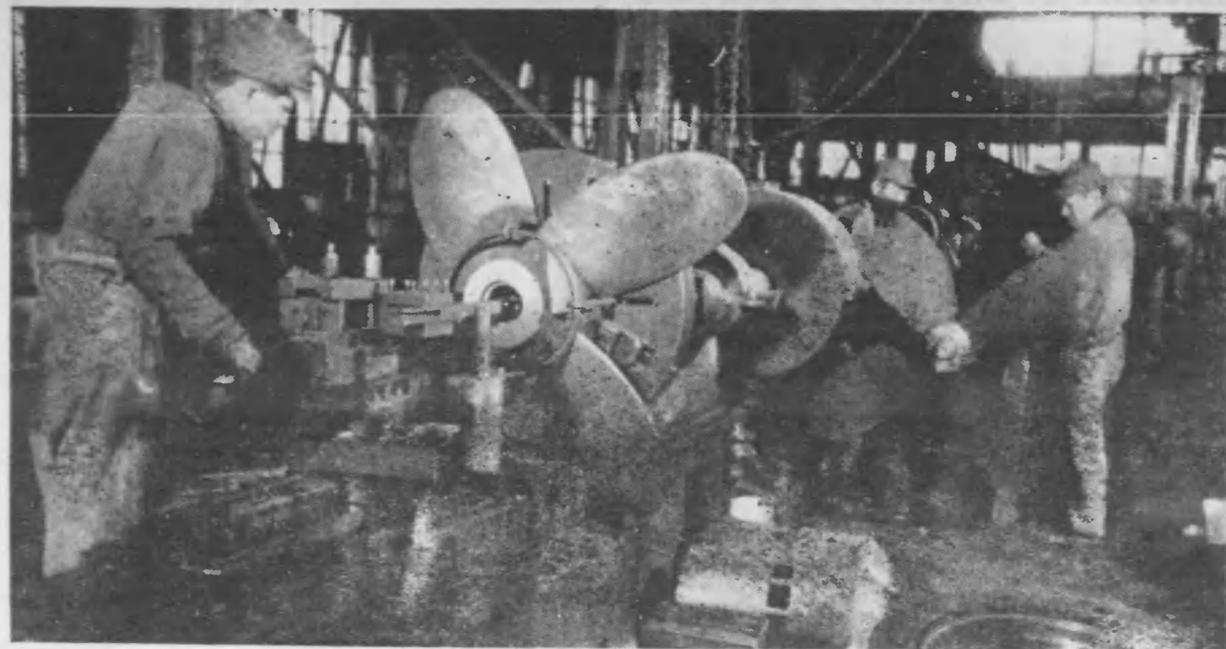
上陸近し、舟艇が先を競つて突入する



船兵は、自衛に協力する艦隊を大發に積み込む船兵、右上方  
準備よし！おくら相ふくんでいよ！出發  
船兵は、前線に敵はねがら果敢な作戦を展開する。また輸送船に  
乗込んで航行の安全を圖る船砲兵、海の機甲部隊の神と成る船通信兵、さらに特別幹部候補生等々、實に船部隊の任務は重要多種であり、これらの戦闘舟艇、輸送舟艇を指揮する兵が、即ち陸軍特別幹部候補生中の船兵なのである。







造船機

↑夜を日に繼いで機工機も大增産だ  
船機一つの増産が、結局は木造船の増産に繋がる

## 機関も帆綱も 急速増産

木造船、骨がずりり巨艦を並べ、  
工員も勇ましい排撃が力強い増産譚をかまて  
ると、大抵の人はもうこれで木造船の生産は  
大丈夫だと思ひがちである。

ところが木造船には推進機関や、甲板上の  
機または排煙機のほかに約百種の機装用の金  
物、百十餘の船用品が必要で、これが備はらな  
いと動く船、役に立つ船は出来上らない。即  
ち、このどれが抜けても、輸送英能の條件が缺  
けるわけで、形が出来ても船は動かない。

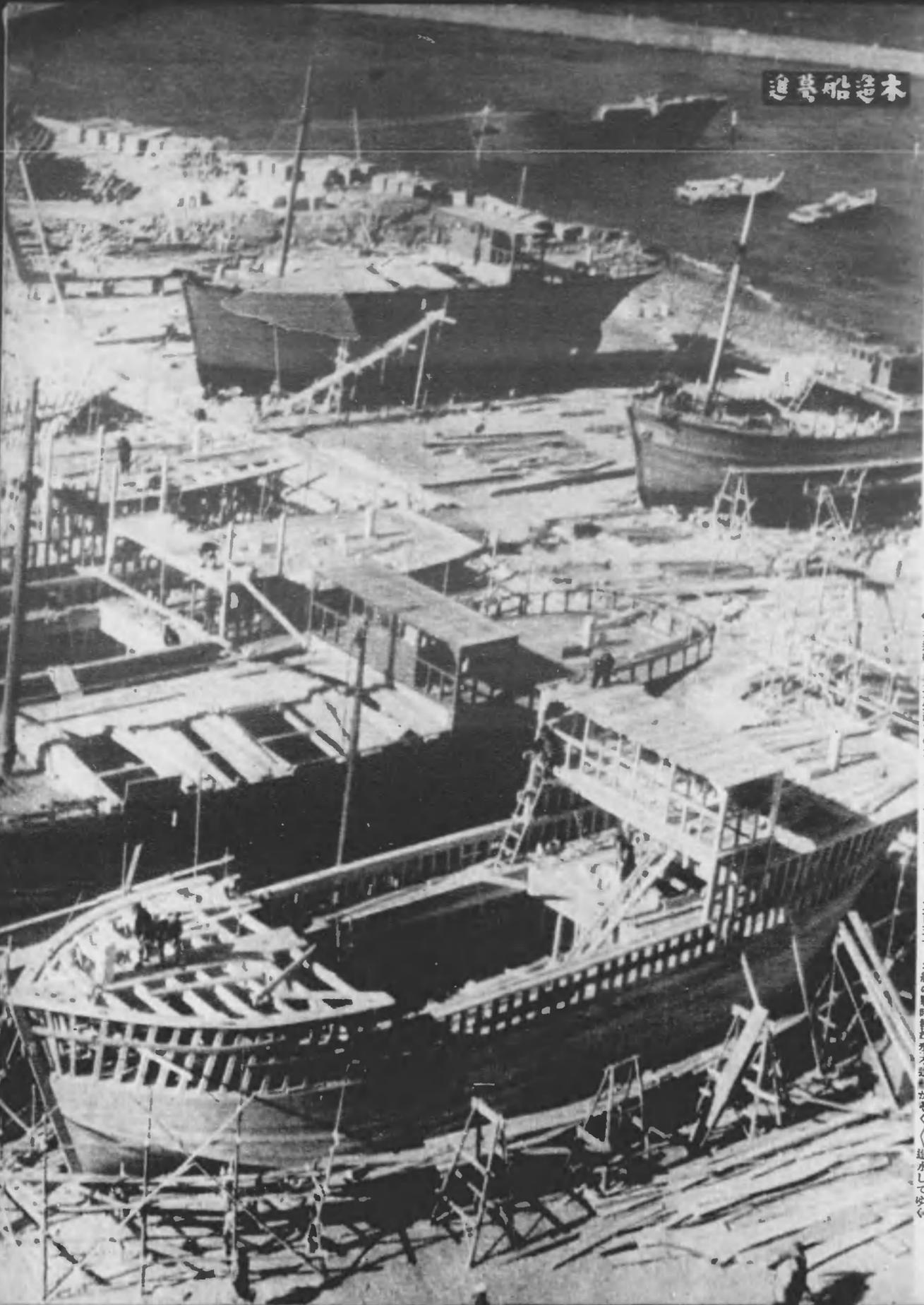
木造船は、これら個々の機種の生産が並行に  
難し、合理的に結びついて、始めてその建造  
が順調に進み、増産の目的が達せられるので  
ある。

これまで船機に對する一般の關心や協力は  
非常に弱まつてきた。だが船用品とか機装用  
金物は、小規模な町工場で生産されてゐる製係  
上、一般の關心や協力も低く、資材や努力など  
の點から生産が順調に進んでゐるとはいはれな  
かつた。しかし、これらの生産が船機に比べて  
餘り遅行すること、船機、船は出来ぬ理窟である  
業者の生産は順調であるが、遅い新造船が  
著々しく大船の海に乗り出すには、これら業  
者の人に知られない血のにじむ努力あることを  
國民は望み、また、その勢に倣ふことを期  
さねばならぬ。

自國の船には自國で！船機も生産を速く！  
帆や帆綱の増産にも必死の努力！  
推測も勇ましく波を渡る日をあざして（左上）  
↓進水した木造船が行つてゐる。さあ、船も大増産を



木造船進



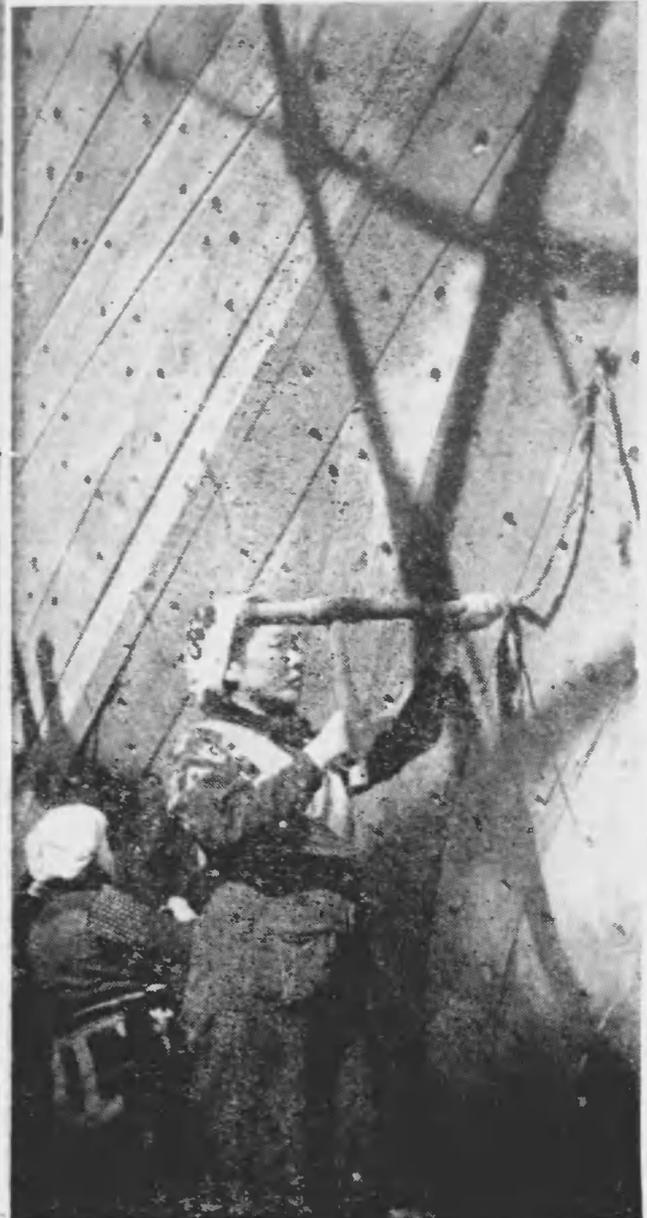
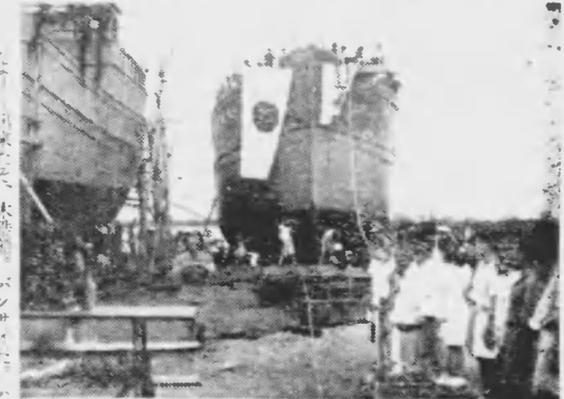
木造船、大衆生所なのだ。日ならずして百トン—二百五十トン級の臨時標準木造船がぞくぞく進水してゆく

大東亞各地に進水相づつ

昨日も今日も大東亞の各地から「はぞく」と木造船が進水してゆく。この進水相づつを何にたとへようか。

大東亞は實に豊かな木造船資源をもつてゐる。松、杉、杉は内地、一度帆を南に向ければ、チーク・ラワン・カレンタンケボ・カボック・クサンビ等の好船材が晴れの進水を持つてゐるのだ。各地に特有な材木を、大東亞に生まれと新入人々のひたすらな新りと興意をこめて建造されるこれら木造船こそは、戦ひの前途に希望と光明とを授けるものである。

また、このためには女手も出来る。船子をしてなしく木造船の音にも、老練な腕のほどを知られる。



一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、百

# 増産戦士に美しい楽の音

文字通り不眠不休の意気込みで軍需生産に懸命な努力をつづける労働者に、よい慰安を與へ、よろこびのうちに働く力を新たにしようといふ厚生運動は増産戦士のいよ／＼はけしくなつてゆく今日、もつと考へられなければならない問題です。移動演劇、移動映寫等といろ／＼の施設も利用されてはゐますが、生産力増強に悪い影響を及ぼさないかぎり、よりよ

い慰安娛樂をもつと積極的にあたへたいものです。大日本交響樂團、東京高等音楽院女生徒等百二十名は一月二十九日、沖電気工場に慰問演奏を行ひましたが、屋上に、窓々にぎつしりとまつた全工員の心をうつ美しい旋律に、湧く拍手、工員も、演奏者もえもいはれぬ感激にとけ合つて働くよろこびを新たにしたのでした。

◁ 働かざる軍需工場の屋上、天幕張りの舞臺、ここでこそ力強い演奏もできようといふものだ



◁ 職場でこの音楽を聞かれようとは、働く女性達にとつても音楽は心の糧だ



◁ 演奏が終ると、こんどは日本一のオーケストラの伴奏で日頃練習した國民合唱を聲はりあげて少年工達の平顔にふれる美しい旋律に結核な魂は恍惚の境に遊ぶ



◁ 幕を開けると美しい旋律が流れこんでくる。忙しさに自分を忘れてた心に静かな安らかな氣持と一緒に、勃然と勇躍への意欲が湧いてくる





もう一人もう一人  
一人の有名人の存在も  
あるがな



「おれはもう一人  
かまへ」

「おれはもう一人  
かまへ」



海軍 決戦兄弟 藤田 浩一

東亞戦争漫画日誌 石川 卓介



「卒業したらすぐお役に立つから」と、大垣市大垣国民学校高等科では男子生徒全部の飛行機増産に對する熱意が溢り、先生方のご指導の下に既に二年前から各種の機械製作をばり、現在では、一週六時間、學科と實習に、これこそ火事を散らす取組を教室内にくりひろげてゐます。昨年六月には〇〇工場に勤務奉仕にゆき、その思ひかけない臨時に工場をおどろかせ、たいへんよろこばれました。

作業開始前には前線將士の武運長久を心からいのりします。

教室には五機の模型が備へてあります。

真田 中 澤 博

或る山村の空へ憧れる少年連の中の一人が見事飛行學校に入學し、その郷土訪問飛行には母への感謝の通信機を投下すると言ふ覚悟をもつこの大映畫『雛鷓の母』は、母一人、子一人の家庭を中心として、祖父母、伯父母、従兄弟、山寺の和尚、先生、學友達の限らない愛情を巧みに描いたものであつて、主題が特投資権性濃く、しかも時情豊かなその内容と感動強い表現は將に國民映畫としての方向を正しく指示するもの一つともいふべきである。



情報局選定國民映畫  
雛鷓の母  
(大映作品)



★表紙  
水原の敵第一機陣地が死物狂ひに火を吐き出した。まさに雨降る敵陣のために、無の周囲は水煙に包まれ、陣野が霞むかと思はれる。だが、上陸地帯めけて霧は直線の前線に覆つて小登は進む。海洋陣地戦の花柳、陸軍特別隊隊員候補生海空立(機動演習)

# 大東亞戰爭

# 國債

## 戰時貯蓄・報國

# 債券

賣出 2月21日→3月6日

國債の購入に代る

# 國債貯金

を利用致しませう

大 蔵 省

印刷局印刷發行

**本誌を回覧に**  
 本誌を、隔組や職場  
 へ回覧するなど、出  
 来るだけ有効に御利  
 用下さい。

**前線慰問にも**  
 またお前線になつた  
 ら本誌を前線慰問に  
 送りませう。送料は  
 内地と同様に封封あ  
 るは開封にして第  
 一種と明記すれば、  
 一部一錢です。

本誌掲載の寫真中、權  
 影を特記するものは提供  
 のは財団法人寫眞協會  
 の製作によるもので、又  
 又、海軍省承認第五  
 四一號です。

**所 達 申**  
 全国各地官報  
 週報普及部  
 各省官報普及部  
 書店・驛書店  
 新聞販賣店

**價 定**  
 一部十錢  
 (送料一錢)  
 外國郵送に依  
 る地域は送料  
 共一部十九錢  
 ▲特大號の場合は  
 其の都度御拂込  
 金より差額を申  
 受けます。

昭和十九年三月  
 九日印刷發行  
 編輯者  
 精報局  
 東京市神田區  
 水田町四丁目  
 印刷者  
 印刷局  
 東京市神田區大塚

寫眞週報  
 禁無斷轉載